

看護実践・キャリア 支援センター通信

2024年
4月

Vol.27

地域貢献事業 明日から使えるCVポートの基礎知識と管理方法



10月21日(土)に、中央放射線部の特定看護師 児玉佐和先生を講師に迎え、実践的なCVポート管理研修を行い、院内外から24名の参加がありました。

最初に留置術について講義を受けた後、児玉佐和先生 放射線・核医学科 助教 豊田将平先生と業者様(メディコン、テルモ)のご協力で、エコーを用いた演習を行いました。また在宅での管理についても学び、附属病院で実際に使っている器具を用いて穿刺～抜去の演習も行いました。

臨床ですぐに使える内容が受講者に大変好評でした。



エコーでPICCを穿刺する静脈を探す



看護実践事業 対人関係の心理学 入門編



奥田淳先生

本学 医学部看護学科精神看護学 教授 奥田 淳先生を講師に迎え、対人関係で活用できる心理学の知識・技術を習得するための講義・演習を9～11月の隔週木曜日の全5回(1回80分)のコースを行い、19名が受講しました。

研修では「ジョハリの窓」や認知再構成法、アドラー心理学など様々な理論を活用して分析する方法を学びました。グループワークやマンガの内容の分析を通して専門的な理論が分かりやすく理解できたようです。自分自身や自分の認識、他人との関わりを一步引いた視点で見つめ直せたことが、臨床での対人関係に活かされることを願います。



「ジョハリの窓」で自己分析

看護基礎教育 看護学生へのキャリアデザインプログラム



自分の「看護」を模索し続けて

11月8日、看護学科の4年生を対象に、看護学生へのキャリアデザインプログラムとして附属病院で活躍する4人の看護師からそれぞれのキャリアと其中で見つめた看護について、話を聞きました。紆余曲折や葛藤を乗り越えて自分にとっての看護を追い求め、ステップアップをしていく熱い思いは4年生の皆さんの心を打ったようです。

4年生からは「働きながら自分に合った道を考えていきたい」「自分も〇〇を目指したい」など、将来の目標とする看護師像を考える機会になったという意見が多くみられました。

地域貢献事業 生き方、逝き方を考える



看護師・僧侶
玉置 妙憂先生



悲しみに飲み込まれないためには

12月2日(土)に、玉置妙憂先生によるスピリチュアルケアの研修を行い、51名の参加がありました。

看護師であった先生は夫の死をきっかけに出家し、死への向き合い方を考えてこられました。そして、患者と向き合う側も自分自身を大切にすること、自分の苦しみを認め客観視する大切さを話されました。またデストライアルでは、死に直面した時に自分にとって大切なものを一つ一つ手放していく時の気持ちを体験しました。

「自利」を満たして「他利」を」というお話に心が少し楽になり、亡くなっていく人やその家族にどのように向き合っていくのか考える機会になったようです。



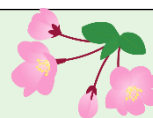
看護実践教育 上級臨床指導者企画研修

1月12日(金)に令和5年度の上級臨床指導者育成プログラム受講者の企画・運営により、「指導者って何する人?～みんなで語り合いませんか～」というテーマで研修を開催し、実習指導者47名が参加しました。最初に「生涯学習」など教育への考え方を学んだ後、スタッフの指導方法についてグループワークを行いました。部署を超えて話し合うことで、悩みの共有だけでなく、スタッフが意欲を持って学習を進める方法について考えることができました。学ぶ側も教える側も共に成長できる教育を考え続けていきたいと思えます。



グループ毎にスライドを作成して発表

看護実践教育 復職支援サロン

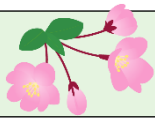


復職者から経験談を聞く

2月2日(金)、復職を控えた育休の看護職を対象にZoomで復職支援サロンを開催し、18名が参加しました。

第1部では復職時に利用できる制度やオンライン研修の説明や復職経験者からの話を聞きました。第2部では人事担当者と復職経験者のルームに分かれ、質疑応答を行いました。参加者の皆さんも最初は緊張した面持ちでしたが、同じような思いの仲間がいることで次第に気が楽になり、話が弾んでいきました。

時短や部休の取り方等の働き方や、保育所の利用の仕方など、経験者ならではの話も参考になったようです。Zoomでの開催は、小さな子がいる家庭からは参加しやすいという意見も多く、今後の事業の参考になりました。



看護学科学生へのキャリアデザインプログラム 若手スタッフとの交流会

2月21日(水)、就職活動前の本学看護学科3年生を対象に、若手看護師との交流会を行い、附属病院で働く魅力を伝えました。今年度は3年ぶりの直接対面の形式で行い、22名が参加しました。

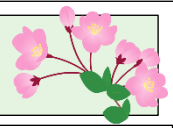
新人教育体制等について説明の後、希望する部署と40分×2回の交流を行いました。若手看護師からはボーナスや休暇の過ごし方から、1年目時のアドバイス等様々な話がありました。笑い声が聞こえる等、終始和やかな雰囲気会で会話が弾みました。熱心な学生は終了後も残り、資格取得までの道筋等を聞いていました。

学生の皆さんには、卒業後にはぜひ附属病院で共に働く仲間になってほしいと思います。



部署から22名の若手看護師が参加

特定行為研修成果発表会



1年間の成果を発表

3月4日(月)、令和5年度の特定行為研修の研修生12名による成果発表会をハイブリット形式で開催し、院内外から50名を超える参加がありました。

研修生からは研修で印象に残ったこと、実習で経験した事例の発表等がありました。研修生はお互いの発表を聞くことで、今後へのモチベーションアップになったようです。

看護基礎教育・看護実践教育

上級臨床指導者育成プログラム受講者・特定行為研修受講者伝達講習

3月21日(木)、院内看護職者を対象に上級臨床指導者育成プログラム受講者と院内の特定行為研修受講者の伝達講習を開催しました。

上級臨床指導者育成プログラム受講生は、受講者に合わせた研修を企画・運営する方法や大学の看護基礎教育で学んだことを、特定行為研修受講者は研修、特に演習を通じて得た学びや臨床での今後について発表しました。今後に活かしたいという想いが伝わる発表でした。



56名が参加しました



上級臨床指導者育成プログラム 修了証授与式

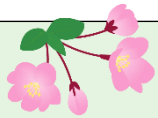


左から修了者 野呂佳子(看護実践・キャリア支援センター)、
深迫由里香(E4)、刀根心平(D3)、加賀田渉(C4)

3月21日(木)、令和5年度の上級臨床指導者育成プログラムを修了した4名に対し、修了証が授与されました。

このプログラムは、教育的役割を果たせるための知識・技術・態度を備え、学びを支援できる上級臨床指導者を育成するものです。看護協会・院内現任教育等での看護教育を考える研修や大学での看護基礎教育の講義や演習を通じて、「教える」「伝える」ことに向き合った1年間でした。

今後も様々な機会で行った今回の経験を活かして行ってほしいと思います。



特定行為研修 閉講式

3月21日(木)、看護師特定行為研修の閉講式が行われました。

令和5年度は急性期コース3名、慢性期・在宅コース9名が修了しました。

病院長からは修了生1人1人への修了証の授与と挨拶を、川口教授からは訓示をいただきました。式では1年間の研修をまとめた動画も流され、修了生は感慨深い表情で画面に見入っていました。

特定行為を行える看護職への期待は年々高くなっています。皆さんのこれからの活躍の場が広がることに期待します。



修了生と研修でお世話になった方々

【急性期コース修了生より】

(急性期コース8期生) 奈良県立医科大学附属病院 高度救命救急センター 多田 雄貴
「患者・家族の苦痛を減らし、快を増やしていくこと」

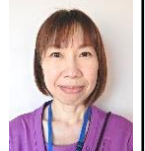


これは私が普段から意識していることで、看護の本質だと考えています。そして、その苦痛に対してはできるだけ早期に介入したいと常々思っています。ところが集中治療の現場では、呼吸器と同調していなくて苦しそう、循環動態が不安定で苦しそう、せん妄で苦しそう等の苦痛に対し、医師が即座に介入できない場面が多々あります。少しでも早く、そして正確なケア・治療を提供したいと考え、特定行為研修を受講しました。

研修中は手技だけでなく、臨床推論や病態把握、倫理的視点等多くのことを学びました。特定行為研修はその名の通り「行為」に注目されがちですが、期待されていることは多岐に渡ります。研修で得た知識や技術を周囲に伝え看護・医療の質を高めること、患者・家族の意志決定を支援すること。特定行為の実践はもちろんですが、今後は教育や倫理面にも注力して活動していきたいと考えています。

【慢性期・在宅コース修了生より】

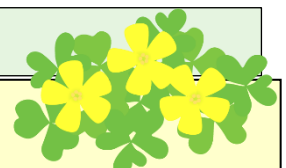
(慢性期・在宅コース6期生) 医療法人仁誠会 奈良セントラル病院 宮前 裕美



「あなたがこの世で見たいと思う変化にあなた自身がなりなさい」という言葉があります。私が看護の世界に飛び込んでから、20数年が経ちました。当時は医師と看護師の壁も厚く、多職種での協働という面においても、まだまだ各々が独立した立場で職務を遂行していた時代であったように思います。しかし、現代の医療界では多職種との連携が非常に重要視され、密度の濃い医療提供が成されようとしています。この特定行為研修は、多分野にわたる要素が数多く詰まった研修であり、技術や行為のみに留まらず、その多職種連携の重要性に関しても、深く学びを得る機会となりました。本研修を受講できた事は、学び続ける事の大切さや、看護に対する情熱をもう一度胸に呼び戻す引き金となって、自身の大きな糧となりました。研修に関わって下さった全ての皆様への感謝の気持ちを心に刻み、このかけがえのない経験を、臨床現場や次の世代に繋いでいき、自分達が変わりを起こせる存在となれるよう、これからも自己研鑽を続け、夢と目標を持って、より良い医療・看護の提供に寄与していきたいと思えます。

研修生を受け入れて頂いた研修施設の指導者・関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

今後のセンター事業



【地域貢献事業】

☆災害医療のキホンのキ 日時:6月8日(土)10:00~16:00

発行元: 公立大学法人奈良県立医科大学 看護実践・キャリア支援センター (TEL0744-22-3051 内線 3233)